

Ruby・OSS プロジェクトセンターの活動

2015 年度

Ruby・OSS によるアプリケーション開発と教育・人材育成への応用の研究

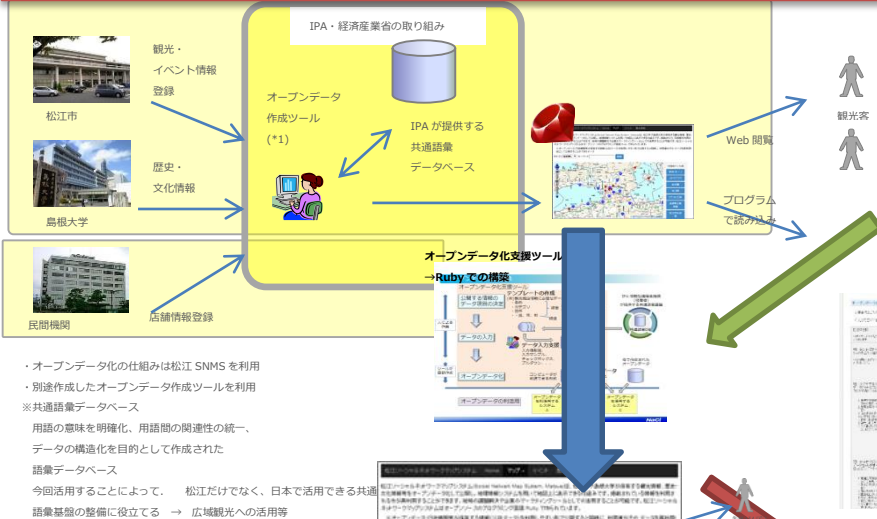
Ruby・OSS を活用したアプリケーションの開発研究を行い、研究成果を活かした教育の実践とその効果・評価を総合的に研究

Ruby・OSS の市場価値と生産性に関する研究

IT 産業で Ruby・OSS を生産性決定要因として計測することで「知の共有化・創出」による生産性分析モデルを構築

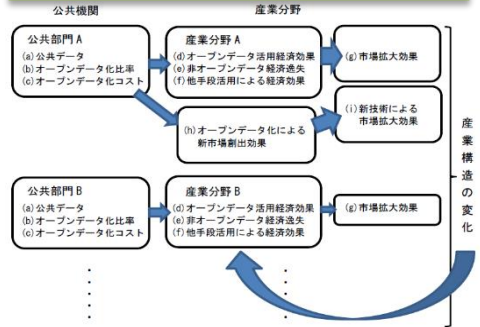
萌芽研究プロジェクト

松江ソーシャルネットワークマップを活用したオープンデータ統計解析システムの構築



研究成果の応用・発展

オープンデータ活用の経済推計モデルの確立



オープンデータ活用・効果分析フレームワーク

WEB アンケート

期間: 2016年2月9日~22日(回収中)
対象: オープンデータ化をすでに実施している日本の182地方自治体の、オープンデータ担当者
配信: 株式会社パイブドットツのSPIRALを使用
内容: OD化の割合・度合、OD化時のコスト、過去の業務のコスト、担当者の実感など。また、被利用度、民間利用の可能性、自治体間のOD化情報伝播ネットワーク。

オープンデータ活用調査アンケートシステム

アンケート調査中間報告

- オープンデータを実践している自治体は1割に満たず、各自治体内には、多くの分野にオープンデータ化できる情報が存在する将来性のある事業
- オープンデータ化には必ずしも莫大な費用がかかるわけではなく、自治体のイメージアップ効果と相殺できる
- オープンデータ化にかけた業務上のコストも、業務の効率化を生み、数年で相殺できる

リンクさせるシステムを開発



松江ソーシャルネットワークマップ
<http://map2.opendata-matsue.jp/>

オープンデータを集積・解析するフレームワーク

普及 (今後の課題)

COC 事業 地域志向教育研究

オープンデータの活用

オープンデータ活用ハッカソンの開催と地域課題を解決するアプリケーションの開発

オープンデータの活用を実証するために松江市の松江歴史館が所有する歴史情報を、プロジェクトで開発した「松江ソーシャルネットワークマップ」(<http://map2.opendata-matsue.jp/>)を通じてオープンデータ化を進め、そのデータを活用した街づくりにつながるアプリケーションのアイデアや開発を学生や市民の手で進めるイベント「オープンデータ活用歴史ハッカソン in 松江」を松江歴史館で開催、「Ruby・OSS 履修プログラム」受講生を中心に参加し歴史情報を通じた街づくりのアイデア出しからそれをアプリケーションとして形にするまで取組んだ。



セミナー・シンポジウムの開催による研究成果の還元 オープンデータと地域マネジメントの検証

オープンデータを活用した経済効果の推計と地域マネジメントの事例調査を進める目的と、研究成果と地域社会へ還元する目的から、オープンデータを活用した先進地域の各分野の研究者・関係者を招聘したシンポジウム形式のセミナーを松江で連続して開催した。



- 「オープンデータのビジネス活用セミナー in 松江」(6月26日) 公共分野によるオープンデータの活用と最新事例とビジネスモデルの講演
- 「オープンデータ活用地方創生セミナー in 松江」(7月28日) 幸福度調査などのデータの活用事例に学びながら「地方創生」に向けてオープンデータの活用方法
- 「オープンデータ活用地方自治体セミナー in 松江」(10月9日) 全国に先駆けてオープンデータの活用が広がり、課題の見える化や解決に向けたアプリケーションの開発を進めている横浜市の講演
- 「オープンデータ活用企業セミナー in 松江」(11月27日) 行政が保有するデータを公開しそれを民間企業がいかに活用していくのかの講演

各セミナーを収録「島根大学地域学習支援 IT システム」で公開

島根大学地域学習支援 IT システム
<https://portal.lscrp.shimane-u.ac.jp/> より

教育成果の応用

特別副専攻「Ruby・OSS 履修プログラム」

